



vol.61

2016年
2月26日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信

— 小下沢風景林の森づくり活動 —



NEW

初年度に設置されていた看板の柱が腐ってきたため（13年経過）、斎藤・佐々木会員を中心に更新され、また新たに西村会員により1年がかりで「公益社団法人 高尾の森づくりの会」の看板が製作されました。また8年経過した小下沢に架かる丸太橋も佐川急便さんの森から材をいただき笹原会員を中心に新設されました。

<http://JACTakao.net>



新しい年に思う

河西瑛一郎

暖かなお正月休みでしたが、皆さまは如何お過ごしでしたか。

私の正月は、お墓まいりから始まりました。亡くなった壽子の誕生日が元旦なのです。

墓前で手を合わせながら一つ約束しました。

それは、「今年は変化の年にする」と言う事でした。

高尾の森づくりの会は順調に推移していますが、

細かく見て行くと組織的な弱点も目につくようになってきました。

作業参加者も増え、作業も複雑化してきています。

これに対応して運営体制の整備も工夫を凝らすべき時期に来ていると以前から感じていました。

昨年創立15周年記念行事を済ませましたが、創立16年になる今年は、

新しい組織立てにする格好の時であると思います。

この問題は、亡くなった壽子からもかなり前から指摘されていました。

指摘される度に、「俺だって必死に考えているんだ」と口論めいたものになりました。

こんな事があったので、墓前での「新年の約束」となったのです。

この具体化のロードマップを考える時、色々な軋轢もあるかも知れません。

今までやって来てマズマズ上手くいっていたものを変えるのですから、異論も出てくる事でしょう。

こんな時思い出すのは「俺たちが森を育てているのではない、俺たちが森に育てられているのだ」

そして、「脱皮できない蛇は死ぬ」と言うメッセージです。

15年かけて成長したであろう我々を、高尾の樹々に評価してもらいながら、

高尾の森づくりの会の一層の発展を図って行きたいと、新年に当たって思います。

一人で見る夢はただの夢、みんなで見る夢は現実になる。 相田 ミツオ

新しい年に思う02
 TOPIX03
 クヌギ林の思い出03
 小下沢NOTE04
 除伐II類と第1回「育樹祭」の開催06
 将来の林分材積成長量を予測する07
 法人会員紹介08
 会員紹介シリーズ④09
 アラスカン簡易製材09
 ラオス国立大学等と協働で
 間伐調査と安全講習等を実施!!10
 ホームページヒット数からわかったこと11
 事務局からのお知らせ12

TOPIX

公益社団法人 日本山岳会
 晩餐会会場に初めてわが会
 の活動写真が展示され、皇
 太子殿下、自民党の谷垣幹
 事長や多くの方々にご覧い
 ただきました。

(写真/加藤会員提供)



クヌギ林の思い出

東京神奈川森林管理署長 齋藤 均



私は栃木の北部の農村に生まれ育った。裏山はスギ、ヒノキが植栽されていたが、クヌギ林が田んぼの周りにあった。冬の間、両親の仕事の一つは「木の葉さらい」だ。クヌギの落ち葉を熊手でリズムカルにかき集め、藁を使い、大人の一抱えほどに纏め上げる。夕方、父がリヤカーに積み、引くのだが、数段に積み上げられた荷の上に乗せられた私は、滑り落ちないように、振り落とされまいと苦勞した記憶がある。

落ち葉は庭の端に高く積み、馬小屋の敷料となった。農耕馬、後に肥育牛の敷料は定期的に掻き出し、庭の端に積み熟成させ堆肥にし、春先に田んぼにすき込んだ。庭は生産の場でもあった。秋、筵に籾を広げ、庭で乾燥させる。このため、冬場、大切な庭を霜柱から守るため、藁や落ち葉を厚めに敷いたので、転げまわるなど心地良く庭で遊んだ。春先には、これらの稲わら、落ち葉はかき集められ堆肥になった。

「堆肥を入れない田んぼは土が痩せてコメはとれなくなる」が父の持論であったが、化学肥料に取って代わられた。何時からか、庭に稲わら、落ち葉は敷かれなくなり、籾は乾燥機にかけられるようになった。

クヌギ林は冬、明るい。萌芽によるクヌギ林は、威圧感が無い。林床は灌木が刈られ、饅頭苔（アラハシラガゴケ）が一面にお椀をかぶせたように生える場所もあり、苔を集めたり、鬼ごっこをしたり、子供たちの遊びの場でもあったのだ。夏、林縁のクヌギの大木の樹液にカブトムシ、クワガタ、スズメバチが群がった。その時期、クヌギ林にチタケ（私の地方では「ちげのこ」とよぶ）が生える。傷つけると乳のような液体がでる食用キノコだ。後に、栃木県人はとても好むが、他県では食用にされないと知った。

子供たちは傷つけないよう、檜の枝葉を敷いた腰カゴに採集した。チタケは油でナスと炒め、うどんの汁にすると美味しい。クヌギ林が少なくなり、また、落ち葉かきをせず放置された林からチタケは消えた。

また、ナツハゼ（実の形状から、当時は「ブンブクチャガマ」とよんだ。「ナツハゼ」の名称は素っ気無くピンとこない）は、クヌギ林に自生するツツジ科スノキ属の落葉低木でブルーベリーに似た実は、甘酸っぱい。山遊びの時、見つけると競ってもいで食べた。クヌギ林は農業生産や生活に密接に関係し、子供の遊び場であり、身近な林だった。

一昨年に父が亡くなり、後を追うように母も逝った。私は定年を数年後に控えている。故郷の森をクヌギ林に再生させてみたい。そして、思い出のクヌギ林を辿ってみたいと思うのである。

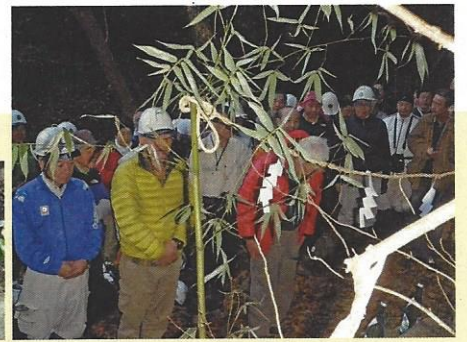
12月定例作業

枝切りも楽しく



倒れる寸前

1月定例作業



山の神に安全祈願

1月中旬に湿った重い大雪で林道をはじめ多くの倒木が目立ちました。



親子予定地へ出発!

楽しかったこと

B班 (サブリーダー)
山崎会員



「きれいな切り屑だね」。2015年10月の「道づくり」活動の際のことでした。道の補修に使う杭をチェーンソーで作っていた時、その声をかけていただき、嬉しくなりました。粉状にならず、1本1本が長い切り屑。やっとできた、という思いがありました。

会の活動に参加し始めたのは2013年1月のことですので、まだ、3年ほどの会員歴です。当初から、やがてはチェーンソーを扱えるようにと、同5月、八王子市内で、労働安全衛生法に基づく特別教育を受講。会のチェーンソー研修会にも参加させていただくようになりました。玉切り、水平切り、そして、ソーチェーンの目立てなどの機械の整備の仕方……。いろいろなことを教わりました。

でも、切り屑は粉になってしまい、どうしてみなさんのようなきれいな切り屑にならないのだろうと、思っていました。

正解はガイドバーのわずかな変形だったようです。気づきませんでした。記憶はないのですが。無理な力をかけて、曲げてしまったのかもしれない。そういえば、ガイドバーのメーカー名の印刷もはげていました。9月のチェーンソー研修会で指摘いただき、新しいバーを買い求めて交換。そして、最初に使ったのが、上記の道づくりの活動でした。

「少し、うまくできた」という体験を重ねることで、自信を持って1つ1つの作業ができるようになったらと思います。今後よろしくご指導ください。



「京王親子体験スクール」での植樹地の準備も順調に進んでいます。

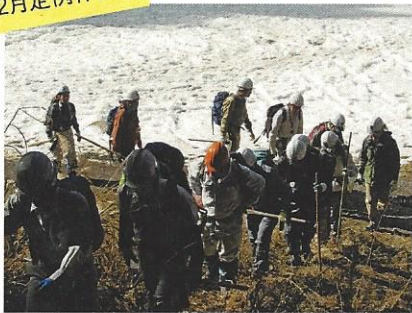


新しく取り組もうとしている
板当間伐作業エリアは急
斜面に加え、落石など安全
に注意が必要だ。
上下作業禁止はもちろんの
こと限られたメンバーで入
ることがリーダー会で決まった。



お汁粉完売～

2月定例作業



新エリアに作業道を着工



喉を潤して作業に励みます。



除伐Ⅱ類と第1回「育樹祭」の開催 龍 久仁人



植樹活動を基軸に行ってきた小下沢国有林での当会の活動は、植樹対象地がなくなったことにより大きな転換を迫られることになりました。この状況は、上木であるスギ・ヒノキの強度の間伐、または択伐などの森林伐採が行われない限り今後とも続いて行くと思われまます。

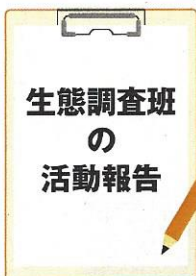
新たな活動をどう構築していくか

昨年7月から検討を進めてきたなかで、森林管理署からの要請も受け、隣接する板当国有林の若齢の森林を新たな活動対象地に加えることになり、昨年末に201林班へ小班での除伐Ⅱ類の作業承認をいただいたところです。1月から既に道づくり・選木などの作業に入っているところですが、これからはこの板当国有林と小下沢国有林の双方での活動を進めていくこととなります。

除伐Ⅱ類とは？

一般的な除伐とは植林木中に侵入した広葉樹やマツなど目的樹種以外の木を除くための伐採を言い、間伐とは植栽した目的樹種の本数調整のための間引きを言います。ここは保安林であり、保安林の伐採では間伐は都道府県知事との協議が必要ですが、除伐は下刈と同様保育とみなし必要なしとされています。そのため国有林では25年生以下の初回間伐を除伐Ⅱ類と称し、除伐と同様協議は必要なしとして整理されています。但し、間伐であることに変わりなく、森林計画（森林経理）上は間伐扱いとなっており、当会でも通常は間伐の名称を使用します。

若齢林の初回間伐は、林冠閉鎖後間もない頃の密度調整であり、林木の連年成長量の最も高い初期段階での成長を促し、また一方で閉鎖林冠に一定量の



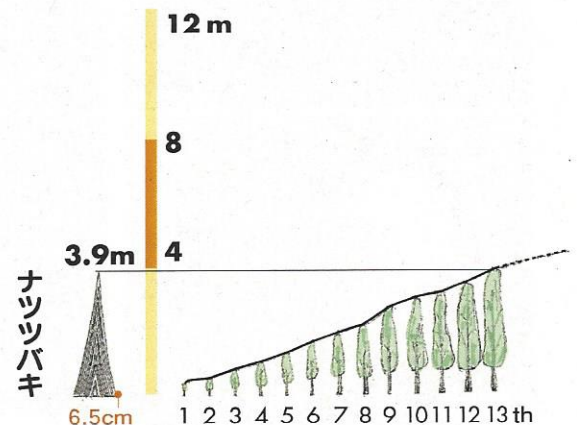
将来の林分材積成長量を予測する

生態調査班 千谷恵子

標準木※による推定材積

樹種	残存立木本数(本)	胸高直径(cm)	100cmあたり20本植樹		
			樹高(m)	単木材積(m ³)	ha当たり材積(m ³)
カツラ	10	14.4	12.2	0.09	90
ヤマザクラ	12	11.8	9.6	0.05	60
オニグルミ	14	10.4	9.5	0.01	14
トチノキ	13	10.3	7.5	0.01	13
ヤマボウシ	11	4.8	4.6	0.003	3
ナツツバキ	10	3.6	3.9	0.003	3

※残存立木のうち上層木の平均的な立木



穴を開け、光を林内に入れる最も必要性の高い重要な間伐です。201へ小班は17年生のヒノキ林、平均径級12cm、樹高9mと手鋸による作業には適しています。伐倒作業の安全が確保でき、やった結果が目に見えることで、作業実施の達成感や充実感が得られるものと思います。但し、ここは傾斜がきつく落石には細心の注意が必要であり、上下作業を回避する工夫も必要です。

植樹祭から育樹祭へ

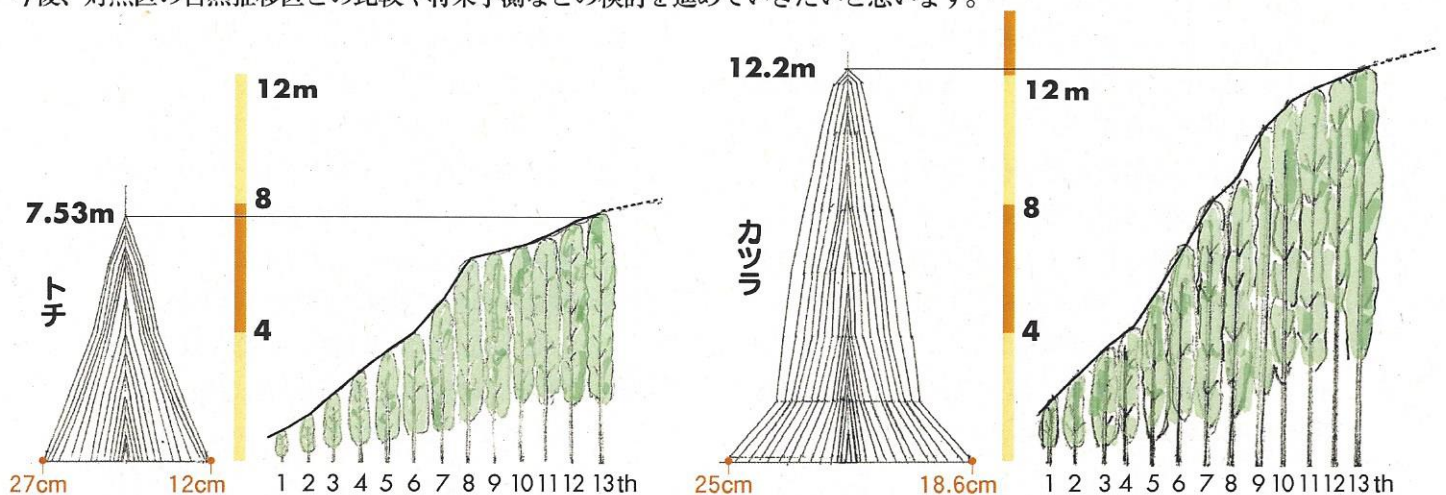
当会では毎年4月に「植樹祭」を行なってきましたが、今年はこれに代わるものとして201へ小班の間伐を「育樹祭」として4月定例作業日の翌日曜日に行なうことになりました。参加者には各自1本の間伐を行っていただくようこれをサポートします。第1回「育樹祭」は初めてのイベントであり、対象地の作業場所が限られていることを考慮し、安全確保の面から今年は一般公募は行わず、法人会員を

対象に人数を制限して実施することとしました。

多様な意味での好循環をめざして

小下沢国有林の長期構想では、森林管理署に強度の間伐または択伐を実施してもらい、その跡地へ広葉樹を植樹して混交林化を進め、多様で豊かなかつての森を復元する。これを第1の目的に掲げていました。この構想は署の森林計画の構想と軌を一にするものです。問題はこの循環が廻っていかないことで、原因は50年も育てた木材の伐採がペイしないことにあります。間伐が経済行為として動いていくためには、木材の復権、木材の利用拡大が基本的に大事です。森林整備に汗を流す一方で、木の利用促進に一石を投じるような活動も大いに検討し、取り組んで行かねばならない課題です。転換期を迎えた今こそ、今後の活動に当たっては、①地域社会に貢献する、②スキルアップを図る、③いつも楽しい、の三つを常に心がけ活動していきたいと思います。

2003年に植栽して13年経過したカツラ、ヤマザクラ、オニグルミ、トチノキ、ヤマボウシ、ナツツバキの生育調査を2015年12月3日に行いました。標準木を選び樹高5m以上の木は2m間隔、未満の木は1m間隔に切り、1年毎の年輪幅を班員各自が1樹種を担当し計測してみました。樹高成長と肥大成長の経年変化から、樹種別の初期段階の成長特性、成長パターンを把握し、将来の林分材積成長量を予測することを目的とした調査です。ここに幾つかの結果を図示してみます。イラストの図は左が経年の樹高と直径、右が樹高成長の経年変化を示したものです。また、計測数値と試算した推定材積を左表に挙げました。樹種によって大きな差があることがわかり、カツラなどではスギ、ヒノキを上回る成長が見てとれます。今後、対照区の自然推移区との比較や将来予測などの検討を進めていきたいと思っています。





法人会員紹介

高尾登山電鉄(株)

高尾登山電鉄

—高尾山と人をむすぶ—

東京西部八王子市の南西部に位置する高尾山は、標高599mの山で、古くからその象徴でもある大本山高尾山薬王院有喜寺が殺生を厳しく戒めてきたこともあって、豊かな自然が遺されています。山頂では、南西に富士山、北西に奥多摩と秩父連山、北東に関東平野、そして南東には相模湾や三浦半島なども一望することができます。昭和42年には、明治100年記念事業の一つとして、高尾山とその周辺一帯が明治の森高尾国定公園に指定され、大阪の箕面国定公園とを結ぶ東海自然歩道の東の起点となっています。

当社は、高尾山の玄関口で観光施設を運営し、四季をとおして訪れる多くのお客様に親しまれ、ご利用いただいております。主要事業は鉄道事業(ケーブルカー)と索道事業(二人乗り観光リフト)であり、その他、高尾山さる園・野草園、食堂・売店、不動産賃貸等の諸事業も営んでおります。会社設立は大正10年9月で、設立の契機は、当時の薬王院武藤貫首による「高尾山に登山電車を敷設し来山する信徒の足の便を図れば、さらに多くの人々に御仏の教えを広めることができるであろう。また、来山者が多くなれば浅川村も経済的に潤うであろう。」との発案でした。昭和2年1月にケーブルカーの営業を開始し、第2次世界大戦中の営業休止を経て、昭和24年10月に鉄道事業を復活させ、今日に至っております。

「安全の質の向上」を常に最優先課題としている当社は、安全重点施策を中心に、設備投資計画に基づく施設設備の改修工事等を順次実施しております。ケーブルカー車体の新造(平成20年12月)、リフト搬器の更新(平成24年12月)に続き、平成26年4月には、約半世紀ぶりにケーブルカー原動・制御設備の全面更新工事を実施して、輸送の安全性の向上を図りました。

また、平成27年には、山頂高尾ビジターセンターのリニューアル、京王電鉄株式会社による高尾山口駅のリニューアルと駅前広場の整備並びに高尾山温泉の開業、八王子市による高尾599ミュージアムの開業があり、山頂及び山麓周辺の施設は一層充実いたしました。「高尾山と人をむすぶ」を企業理念とする当社は、今後とも地元関係団体等と連携を図りながら、高尾山の魅力の向上のための施策と情報発信の取り組みを推進してまいります。

一方、当社は、高尾山の自然を守り後世に引き継いで行くという社会的使命を担っております。今後とも、公益社団法人日本山岳会 高尾の森づくりの会の一員として、毎年小下沢ベースで開催される「高尾の森植樹祭」に参加するほか、公共団体等が実施する自然環境保全の施策に積極的に協力するとともに、野草観察会・山野草講座等を主催し、高尾山の豊かな自然を理解し親しんでいただくための機会を広く提供してまいります。

総務部総務課

ドローンの映像処理で 役に立ちたいです



会員紹介シリーズ④ 永井有希

高尾の会へ参加したのは、会社の先輩に誘われたことがきっかけでした。普段は、画像処理の研究開発をしており、毎日パソコン向き合い続ける生活をしています。普段そのような生活をしているからか、元々田舎で育ったからか、あるいは動物の本能からか、自然の中にいると心が安らぎ、活力を取り戻す気がします。

また、普段知り合うことの少ない世代と交流できることも魅力に感じています。経験や知識が豊富だけでなく、好奇心や知識欲を持ち続けてアクティブに活動されるメンバーの方々の姿勢からは、たくさんのことを学び、励まされています。

最近、ドローンプロジェクトに関わらせていただいています。

会報などでご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、このプロジェクトでは、ドローンを用いて森の中に設置された動物撮影用のカメラデータを収集したり、上空からの撮影により植樹した木々の様子を観察したりすることを計画しています。ドローンプロジェクトのメンバーも、もちろん定年を過ぎた方が大半です。

現役として恥ずかしくないよう、私も画像処理を用いて、少しでも活動のお役に立てるようにすることが当面の目標です。例えば、画像処理によって、動物カメラデータから動物の撮影されている映像のみを抽出することができそうです。

平日の仕事で疲弊し、土曜の早朝に起きて山へ向かうことは思った以上に大変ですが、これからも高尾の会に参加し続けていきたいです。

木づかいがもっと身近になるよ！

アラスカン簡易製材

高橋賢次

アラスカン（商品名：グランバーグ・スモール・ログミル）とは米国製のチェーンソー・アタッチメントで、丸太を板に挽くポータブルな道具です。使用法は、インターネットで商品名を検索すれば動画などで紹介されていますので割愛し、ここでは写真のような大径丸太（最大径44cm×長さ1.1m：ヒノキ）から大板を挽く方法をご紹介します。



1
最初に鉄パイプ（商品名イレクター）で自作した基準レールを丸太にねじ止めします。年輪の中心線とレールを平行にするのがコツです。



2
私のチェーンソーのガイドバーは35cmですが、取付け代を除く有効切断幅は28cmに減じます。つまり直径28cmまでの丸太なら挽けますが、今回のように44cmもあると1回のカットでは16cm（44-28cm）も切り残しが出ます。



3
そこで特製ガイドバーを用いた二回目のカットで切残しを切り離します。特製バーは、先端側の10cmに厚さ1mmのプラスチック板を両面テープで貼りつけて、チェーンのアサリと同じ厚さ6mmに改造したものです。

4



1回目のカットの鋸道の厚さは約6mmなので、特製バーはピッタリと納まりますがアサリは届かないので鋸道を削り広げません。すなわち先端側10cmは1回目の鋸道をすべるガイド板となり、バーの根本側で切残し部を切り進むことができる、まことに都合の良いガイドバーになるのです（特許非出願）。



今回は幅44cmでしたが、幅50cmの大板を挽いた実績があります。

平成28年1月24日～28日の4日間、ラオス国での活動日程で、第2回間伐ツアーを組み、日本国からは9名、ラオス国立大学林学部（教授1名、4回生の学生10名：全員男性、ラオス国農林省森林局林業研修センター職員所長以下6名、地元伐採技術作業員2名等総勢30名で、同センターをベースにして、間伐と間伐作業の安全について活動しました。

この取り組みは、2011年の国際森林年に因み、（公）国土緑化推進機構の直接事業として、同機構からの協力要請に基づき、高尾の森づくりの会が、過去5回の植樹（2.5万本、20ha）に加えて、昨年度から実施の間伐（2ha）であります。

この間伐のフィールドは、ラオス国がこの地域での焼畑による森林減少で、国の重要施設であるナムグ

ム湖への土砂流入防止策の一つとして森林再生を日本国に要請し、日本国の支援で、平成10年から5か年計画とその後植林（平成19年現在：72ha）された場所で、植林後約20年を経過し、最初の間伐の適齢期を迎えていたものであります。

今回の活動の第1日目は、学生及びセンターの職員を対象とした間伐の意・目的、密度管理、森林の役割、間伐作業時の安全等に関するプレゼンを行ない大学、センターから高い関心が寄せられました。

2日目は、ラオス国から「日本の林業作業機材・道具の安全な使い方について学びたい」との要請を受け、日本製のチェーンソー、間伐用ノコギリ、二丁差等を持ち込み、伐採作業での安全な使い方等を説明すると共に、チェーンソーによる伐木作業に関わる特別講習（座学、実技）を松隈茂氏（元林災防協会主任安全管理士）に依頼し、実施しました。

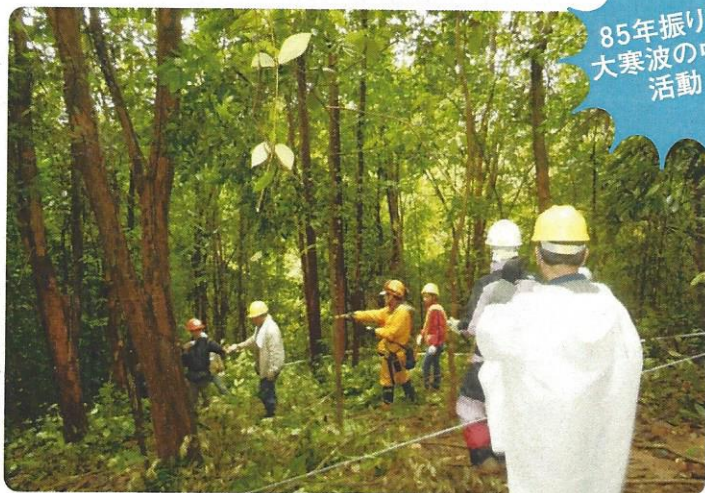
この特別講習に対しては、大学からは「大学では林学を座学や実習として演習林での樹木の調査をしているが、今回のチェーンソー・道具を使用したの伐採は初めての体験で、大学ではできない貴重な経験をした。とても感謝している。」との感想が述べられた。またセンター職員からは、使用した日本語版のテキストについて、ラオス語に翻訳して欲しいとの要望が寄せられた。

3日目は、雨の合間を縫って試験林での間伐調査（選木含む）及び間伐作業を実施しました。この調査・作業の段階から、小雨からスコールになり当初予定の調査範囲も20m×20mを10m×10mに縮小し、間伐作業も完遂はできなかったものの、広葉樹林の選木では、ソブ教授、ラッタナ所長等地元の方の考え方を重視して、将来木としてマイドゥ（ビルマカリン）を中心に、伐採の本数率は半分程度にして、間伐した。

4日目は、ラオス国農林省森林局のトゥンエット次長を早朝訪問した。森林局からは過去5回の植樹、間伐に対する感謝が述べられ、これからの取り組みについて「本プロジェクトが成功すれば、2020年～2025年の国の5か年森林計画に組み入れて、森林再生（現行の森林率4割大を元の7割に復旧）を図りたい。」との、強い期待と高い関心を示されるとともに、国として継続的に協力していくとの心強い発言を頂いた。この期待に応えるためにも、今後数値データを把握する必要性があり、ラオス大学との連携のもとに、モニタリングの実施が強く求められています。

ラオス国立大学等と協働で 間伐調査と安全講習等を実施!!

ラオス植林プロジェクトチーム 馬場隆博



将来木（残存木）の選木を指導しているラッタナ所長



紙芝居で、間伐と間伐の作業安全を説明している様子。

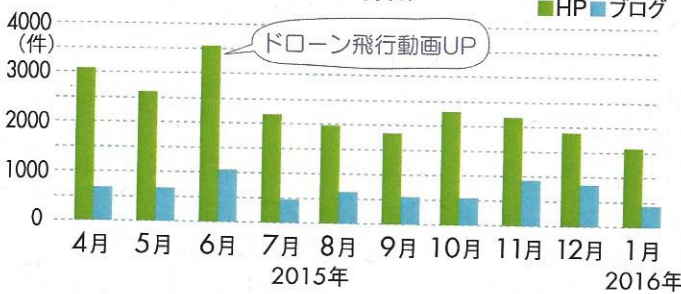
チェーンソーによる特別講習に聞き入っているラオス大学生、センター職員、地元林業技術作業員



日本山岳会 高尾の森づくりの会のホームページへようこそ。
東京、葛高尾小下沢風景林で、あなたも私たちと一緒に汗を流しませんか。

トピック

ホームページ/ブログのアクセス件数



ホームページヒット数からわかったこと



新鮮な情報と魅力的な動画をこれからも

1月の定例作業を終えて日陰バス停からバスに乗ると私の後ろの席で「ホームページ担当者は誰なのかな」との話す会員の声が聞こえた。すぐさま振り返り私ですと答えると、女性がにこやかにいつもHPの更新を楽しみにしていますとお言葉でした。担当者としてはとてもうれしく、ブログを新設して更新スピードを上げ、最新情報をお伝えできることがアクセス数の増加になると確信した。開けるたびに変わっている新鮮な情報がホームページには大事であり、会員の情報源になると感じています。

会報59号ではホームページをリニューアルして約1年後の3ヶ月間のアクセス数をご報告いたしました。今回はHPのアクセスを収集をはじめた2015年4月から2016年1月までのアクセス数から何ができてきたかを考察してみました。

毎月平均約2000アクセスがありますが、新しい記事(例:定例作業後のアクセス増加、ドローン飛行の紹介、プロジェクト速報、イベント速報など)を掲載した時にはアクセス数が急激に上がります。

会員の方は勿論ですが、会員や法人会員以外の方と思われるアクセスも増加します。特にブログへの掲載はイベントの速報性を重視して当日か数日後に掲載していますのでその速報性が喜ばれていると感じています。

毎月のアクセス数はグラフにして実行委員の方に配信しております。数値でHPのアクセス数を把握しておくことはHPの出来栄をつかむことにも繋がっていると思います。

創設16年目に入り、HPをさらに充実していくためには、古い資料の改定・削除や更新などが必要と感じています。会員及び法人会員の皆様からもHPに追加したほうがよいコンテンツの希望や資料のご提供をお待ちしております。

また、ブログの記事には感想などのコメントを入れて頂き、会員の皆様の積極的な参加をお願いします。さらなるHPの充実を目指しておりますのでご協力の程、よろしくお願いたします。

連絡先 ホームページ担当: 十河三郎
Mail webmaster@jactakao.net

事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

11/28(土) 臨時作業(紅葉鑑賞会)	162人
12/5(土) 森の研修会(木工)	18人
12/12(土) 定例作業(間伐)	80人
1/9(土) 定例作業(除間伐)	105人
1/25~30 ラオスプロジェクト間伐ツアー	108人
2/13(土) 定例作業(除間伐)	84人

今後の主な作業・行事スケジュール

3/5(土) 森の研修会
3/12(土) 定例作業(除間伐)
4/9(土) 定例作業(除間伐)
4/10(日) 育樹祭
5/14(土) 定例作業(除間伐、下刈)
5/14~15 緑の感謝祭フェスティバル

毎週(木)第3(土)ものづくり・小屋管理班作業日
第1(水)生態調査班作業日
第3(日)機械作業班作業日

- 集合場所・時間：高尾の森ベース9:30集合
車で来る方は、高尾駅北口京王路線バス停(甲州街道)からの相乗りに協力下さい。
- 参加連絡：事務局/龍久仁人あてご連絡下さい。
E-mail: ryu-kun@cablenet.ne.jp Fax: 048-254-2852 はがき: 〒332-0031 川口市青木1-21-7-402
- 体験参加を希望される方は、上記事務局あてに申し込んでください。(住所、氏名、電話、メールアドレス記載)

入会者紹介

11月以降、次の方が入会されました。
紺野絵里、蓮沼貴子、瀬戸禎子

2016年度 会費・保険料納入のお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。保険の一括加入手続きを3月中に行ないますので、納入期日は3月20日まで必着でお願いします。一般会員3,500円、家族会員2,500円、大学生1,500円、(以上ボランティア保険500円込み)賛助会員3,000円、機械作業登録者5,350円(または4,850円)ボランティア保険とスポーツ保険1,850円の両方に加入することをお奨めしています。

・納入方法は、郵便振替をご利用下さい。

*口座記号番号：00160=3=0688239

*加入者名：日本山岳会「高尾の森づくりの会」
ニホンカクカイ タカノモリツクリノカイ

・銀行振込も可能です

*銀行名：ゆうちょ銀行〇一九(せういぢゅう)店

*口座番号：当座0688239

ニホンカクカイ タカノモリツクリノカイ

・期日以降に入金された方は、暫くは行事保険対応となりますのでご留意下さい。

高尾の森づくりの会

春季イベント参加者募集

第16回 三宅島緑化再生プロジェクト

2016年5月20日(金)~22日(日)(19日22:00乗船)
作業内容：被災地の植樹、園地整備、下刈作業
参加費用：27,000円(船賃、宿泊代、島内バス代を含む。)
申込み先：渡辺美夫 watanabe-y@c3-net.ne.jp
TEL/FAX 045-893-1952

申込締切
4月15日

第11回 気仙沼大島震災復興プロジェクト

2016年6月17日(金)~20日(月)(出入り自由)
作業内容：被災マツ林の伐倒、間伐、遊歩道整備
参加費用：交通費自己負担、宿泊1泊当たり6,000円~。
申込み先：小木曾裕子 yuko.ogiso@konicaminolta.com
TEL/FAX 042-342-4637(日比野宛)

申込締切
5月20日

第6回 ラオス展示林造成プロジェクト植樹ツアー

2016年7月2日(土)~7日(木)
集合：2日夕刻までにピエンチャンのホテル集合
作業内容：熱帯郷土樹種1,000本を植樹
(ラオスの村人、中高校生など100人と共同植樹祭)
費用概算：10万円(航空賃、滞在費、食事代を含む)
募集人数：20名
申込み先：笹野典子 sasano-hoshi@nifty.com
TEL/FAX 090-4453-2670

申込締切
5月20日

小下沢に図書館？

作業小屋に高価で貴重な蔵書があることをご存知でしょうか？
決して不要な蔵書ではありません(^_^)
いつでも貸出しますので小屋管理班まで。

編集後記

61号も多くの方のご支援で発行することができました。お礼申し上げます。今年より8月11日は「山の日」(祝日)となります。山岳会から我々に対し「記念として何か取り組めないか?」との依頼があります。アイデアを出していきましょう。(松川)

